

## ESTABLISHING AN ANTIMONY CONSORTIUM FOR REACH REACH対応のアンチモンコンソーシアム設立

### IAOIA becomes i2a IAOIAからi2aに

国際酸化アンチモン協会（IAOIA）はREACHの要請と対象範囲に対応するため、三酸化アンチモン以外のアンチモン化合物も網羅すべく対象範囲を拡大しました。2008年1月からIAOIAは国際アンチモン協会（i2a）に名称変更されました。i2aの使命はアンチモン化合物の環境影響、健康、安全に関する研究を実施し、それらの研究内容に関する情報を世界中のアンチモン化合物生産者に提供し、また世界中のアンチモン化合物生産者間で共有し、これら化合物の安全性と恩恵に関する情報を啓蒙することにあります。i2aには現在までにヨーロッパ、アジア、アメリカ、ロシアのアンチモン化合物生産者、輸入業者、流通業者33社が加入しています。メンバーはアンチモン化合物ごとに、世界市場での取り扱いトン数に応じて貢献します。メンバー間の情報伝達を促進するため、各種の作業グループが設けられています。

### ATO and REACH 三酸化アンチモンとREACH

ATOのREACH登録準備は順調に進んでいます。REACH登録のために必要な研究のほとんどが既にATOのEUリスクアセスメント対応において実施されています。新たなメンバーの加入に伴って、生産工程説明との合致、不純物レベル、各種用途からの排出量などの照合作業が残されています。リスクアセスメントでの分類結果がREACH当局に提出されることとなりますが、現在のところ、ATOは有害リスク分類の対象となっておりません。

### Antimony and REACH アンチモンとREACH

文献研究の結果、その他のアンチモン化合物に利用可能なデータが明らかになりました。多くのデータギャップがATOデータからの読み取り法によって満たすことが出来ると期待されます。2008年はi2aの対象となるアンチモン化合物の変換／解離試験、生物化学利用試験、その他の基礎的な読み取り法試験を実施します。アンチモン化合物はトン数量帯の最も高いメンバーから順次登録されることとなります。

### JOINING i2a i2aへの加入

i2aは生産者、輸入業者、消費者の加入を歓迎します。加入期限は4月30日です。その後に参加する場合には入会金は高くなります。詳細情報は[kvdv@antimony.be](mailto:kvdv@antimony.be) にお問い合わせ下さい。

**ATO: EU Risk Assessment Nearly Completed**  
三酸化アンチモン : 欧州リスクアセスメント近々終了

**Environment: No major risk identified & no need for classification**

環境影響 : 大きなリスクは確認されず、リスク分類は必要なし

欧州リスクアセスメントにおいては、三酸化アンチモンの生産、使用及び廃棄によりアンチモンが環境に排出されるすべての主要なプロセスが考察されました。欧州加盟国技術専門家会議 (TC-NES) が三酸化アンチモン (ATO) の環境リスクアセスメントに関する意見募集の結果を最終審議したのは2007年4月9日でした。ATOのリスクが確認された地域、大陸はなく、それ以上の研究は予定されていません。局地レベルでさえ、土壌、表層水、大気及び二次毒性に対するリスクは確認されませんでした。

局地レベルで確認された唯一のリスクは欧州のATO生産者1社の底質に対するリスクでした。しかしながら、この工場からの排出は低レベルであり、また、工場廃棄物の排出工程の改善により排出量は年々減少しています。繊維工場1カ所で底質に対する局地的リスクが確認されましたが、これは繊維産業界からの情報提供が不十分であったことに鑑みて予防原則に従ったことによるものです。(繊維を含む) データが提供されたその他のすべての産業分野において、底質に対するリスクは確認されませんでした。TC-NESはまた、ATOをいかなる環境リスク分類にも区分しないことに合意しました。

**Health: no risk for consumers or for exposure via the environment**

ヒトの健康影響 : 消費者あるいは環境経由の暴露に対するリスクはなし

リスクアセスメントのヒトの健康部分については、2008年2月に審査担当国 (スウェーデン) によって修正され、2008年4月のTC-NESで最終審議されました。消費者あるいは環境経由の間接暴露に対するリスクは確認されませんでした。

リスクアセスメントの結果は次のように要約されます。

- ATOには経口、吸入あるいは皮膚接触による急性毒性はない。
- 感作性、目や呼吸器系への刺激性のいずれもない。
- 生体内 (in vivo) 試験において生殖毒性も遺伝毒性もない。

動物実験において影響がないにもかかわらず、ATOはヒトの影響事例 (労働者) に基づいて“ヒトの皮膚への刺激性 (R38)” に分類されることとなります。ATOは現在、発癌性カテゴリー3に分類されていますが、米国国家毒性プログラムが実施する2年間の生物化学吸入試験により基本的なメカニズム (閾値) が明確になります。

三酸化アンチモンに関する現在利用可能な科学的データのより詳細な概要は、まもなく我々のウェブサイトで利用可能になります。 [www.iaoia.org](http://www.iaoia.org).

ヒトの健康及び環境影響ともに、スウェーデン当局が2週間の意見照会を経て、5月5日までに最終草案を準備します。

スウェーデン当局はリスクアセスメント報告書をREACHに転用するために、2008年12月1日迄に付属書XV資料を作成する必要があります。付属書XV資料には、わずかでも確認されたリスクについてのリスク管理手法の提案も含まれます。

- 1- Covance, Evaluation of micronuclei and chromosome aberrations in the bone marrow of Sprague Dawley rats following a 21 day repeated exposure to antimony trioxide, May 2006
- 2- Substances and preparations of concern for humans because of the possible CMR effects but for which there is not enough information available to classify these substances and preparations as a category 2 (suspected CMR).

## Revision of the RoHS Directive: Antimony not included RoHS指令の改訂 : アンチモンは含まれない

欧州委員会はÖko 研究所にRoHS指令の検証において追加される可能性が非常に高い新規物質リストを用意するよう要請しました。(RoHS: Restriction of Hazardous Substances:有害物質の制限)

最初の草案には三酸化アンチモン (ATO) とほとんどのアンチモン化合物が含まれていました。i2aは Öko研究所に書簡と利用可能な科学的データを送り、以下の事実に基づいて、この草案からATOとアンチモン化合物を除外するよう要請しました。

ーATOは欧州委員会が新規RoHS候補物質を選定するために設定した判断基準に合致しない。ATOはPBT(難分解性生物蓄積性毒性物質)でもvPvB(高難分解高蓄積性物質)でも内分泌攪乱物質でもない。このことはATOのリスクアセスメントにより確認されている。さらに、最終製品中の三酸化アンチモンは難燃ゴム、プラスチック、繊維バックコーティングなどでは物理的結合により、ポリエステル、ガラス、顔料などでは形質変換状態での化学的結合により、母材中に密封された状態にある。

ーアンチモン化合物は電子・電気機器用途においては(危険物質の分類、包装及び表示に関する指令67/548/EECにより)使用濃度に応じた危険特性の分類を要求されていない。

リスト草案に関する意見照会に対しては、多くの関係者がATOとアンチモン化合物が含まれることに反対しました。詳細については <http://hse-rohs.oeko.info/index.php?id=12>. をご参照下さい。

この結果、Öko 研究所は4月末に欧州委員会に提出する新RoHSリスト草案にアンチモンを追加しないことを確認しました。

### Upcoming events – Conferences attendance

#### 今後の会議開催予定

2008年 4月30日	:	繊維工業会 (TFA) フォーラム (英ハダースフィールド)
2008年 5月20-21日	:	欧州金属協会 (Eurometaux) REACH セミナー
2008年 5月20-22日	:	欧州化学品庁 (ECHA) REACH 会議 (ヘルシンキ)
2008年 6月19日	:	i2a 理事会 (ブリュッセル)
2008年 6月20日	:	i2a 総会 (ブリュッセル)
2008年11月13日	:	i2a 理事会 (パリ)
2008年11月14日	:	i2a 総会 (パリ)

### Organization of i2a i2a協会組織

役職	氏名	e-mail アドレス	電話番号
理事会議長	CA Rougier	<a href="mailto:charles-antoine.rougier@sudamin.com">mailto:charles-antoine.rougier@sudamin.com</a>	+33 (0) 147711616
総会議長	Geert Krekel	<a href="mailto:geert.krekel@campine.be">geert.krekel@campine.be</a>	+ 32 (0) 14 601 549
事務局長	Karine Van de Velde	<a href="mailto:kvdv@antimony.be">kvdv@antimony.be</a>	+ 32 (0) 3 297 60 92

国際アンチモン協会 (i2a)新事務所:  
Avenue de Broqueville 12  
5<sup>th</sup> floor  
1150 Brussels